



# 投資日報

established in 1964

Investment  
Weekly Report

9/18日

発行 株式会社投資日報社  
www.toushinippou.co.jp/

第9巻 第36号 通巻412号

## 米国の通貨政策に 異変あり

金融アナリスト  
永山卓矢

### 【F R B副議長辞任の意味】

今月6日にフィッシャーF R B副議長が辞表を提出した。

表向きは“一身上の都合”とされているが、金融規制の強化を信念とする姿勢が、トランプ政権が推進している自由化路線と相容れなかったとの指摘もある。

ただ、フィッシャー副議長は前イスラエル中央銀行総裁として、主要国・地域の中央銀行の金融政策を実質的に統括、管理しているグループ・オブ・サートィ(G 30)の最高幹部の一員として送り込まれ、F R B執行部で主導権を握ってきた経緯がある。本来、多くの主要国の中央銀行は欧州ロスチャイルド財閥系だが、このG 30は米ロックフェラー財閥の傘下にある。すなわち、現在ではこの米系財閥が主要国・地域の中央銀行の金融政策に強い影響力を行使しているという事だ。

言うまでもなく、フィッシャー副議長はこの米権力者層の意向に沿ってF R Bの金融政策を運営してきた。年3回のペースで利上げをしていき、F R Bの資産縮小を推進する事で金融政策の正常化に向かうのも、世界覇権を握っているこの米系財閥の意向によるものだ。

F R Bが金融政策の正常化に向かうにあたり、2%のインフレ目標の達成を目指すのは、単なる表面的な名分ではない。

その本当の目的は、①金融機関の財務内容に影響をもたらす資産価格の高騰の抑制、②新興大国を衰亡させて米国優位の状況をもたらす事、③新興国勢にドル建て資産に逃避させた上で売り崩す事による米国の対外債務の削減、④米国経済をリセッションに陥らせて戦争を引き起こす名分を得る事で軍需産業を興隆させる。といった事がある。

いわばF R Bの政策は、米金融機関や軍需産業の利害を代弁したものであると同時に、米国の世界覇権の維持を図る目的があると言える。にもかかわらず、そうした政策を推進していた筈のフィッシャー副議長が辞任する事になったのは、米権力者層の意向が抜本的に変ったか、権力基盤の変動や動揺が生じた可能性を考えない訳にはいかない。

### 【米系財閥が主導権を握り…】

以前、本欄で北朝鮮問題を考察した際に指摘したように、米トランプ政権では8月8日に大統領が「炎と怒り」発言をした事で米朝間の対立が激化したのに伴い、主導権が欧州系財閥から米系財閥に移行している。結論から先に言えば、これに伴い米国の通貨政策も変わったようだ。

欧州系財閥は、トランプ大統領の保護主義的な姿勢を利用して中国に通商問題で圧力を強め、国際会計基準の導入や資本取引の自由化を受け入れさせる事で、将来的に国有銀行や代表的な国有企業を次々に買収していく事を目論んでいる。

そこでは、F R Bが引き締め政策を推進して対米資本還流を促進させる事で、中国に非常に大きな圧力を加える効果があった。

中国では国有、民間を問わず多くの企業が薄外で巨額な対外債務を抱えており、人民元安が進むと実質的な負担が激増してしまうからだ。欧州系財閥にとってはF R Bの政策は、北朝鮮に原油の供給の抜本的な停止を迫る事で、水面下での通商交渉で圧力をかけるのと同じ効果があった。

一方、米系財閥は中国を「悪の帝国」に仕立てて「新冷戦」構造に持ち込む事で、大規模な軍需を創出する事で世界経済成長を牽引していこうとしている。

そこでは、当然の事ながら国防費を大幅に増額していく事が避けられず、将来的に財政赤字の問題が大きな課題にならざるを得ない。財源のファイナンスは「日米マネタイゼーション」により日本側に多くを負担させるとしても、公的債務が一段と大きく積み上がっていくのは避けられない。

米国の公的債務残高は公式には20兆ドル程度とされているが、実際には65兆ドルにも達しているとの証言も出ているほどなので、これをいかに減らしていくかが大きな課題になる。当然の事ながら、その対処としてドル安への誘導は避けられない筈だ。

かつて、現在のトランプ政権と同様に共和党新保守主義(ネオコン)派が主導権を握っていた80年代のレーガン政権では、財政収支と経常収支の「双子の赤字」が膨れ上がったのを受けて、85年9月22日のプラザ合意によりドル相場が大幅に切り下げられた。しかし、それがドル不安につながっていくと、87年2月22日にはルーブル合意によりその沈静化が図られた。日銀も長期的に超金融緩和策を続けなければならなくなり、それが90年にかけての日本経済のバブル化を引き起こす直接的な要因になったものだ。このように、ドル切り下げが遅れると、大きな衝撃を引きこさずにはおかないので、現在のトランプ政権では早めそれに動く事でソフトランディングを図ろうというものだ。

そこでは、米国が資金ファイナンスに支障を来さないために日銀には現行の超大規模な量的緩和策の継続が望まれる一方で、それ以外の主要な中央銀行には緩和策からの修正が求められる事になる。特にドルに次ぐ国際通貨であるユーロを管轄しているE C Bに対して、超緩和策からの修正が求められる事になる。

### 【ドル安誘導のために…】

E C Bの金融政策については、毎月600億ユーロのペースでの資産購入策を年末まで続けた後、年明けからその縮小(テーパリング)に動く事が実質的に既定路線になっている。

ただ、イタリア出身のドラギ総裁をはじめ、執行部は財政事情や経済情勢が脆弱な南欧諸国出身者で占められているため、本音ではそれに消極的なようだ。これに対し、以前からドイツは政府、中央銀行ともに超金融緩和策の推進には否定的だったため、テーパリングには肯定的な姿勢を見せている。

注目されるのは、米国ではオバマ前政権の時にはE C Bが超金融緩和策を推進するのを後押ししていたのが、現在のトランプ政権は保護主義的な観点から、ユーロ安をもたらしていたE C Bの超緩和策に批判的である事だ。それにより、前政権期にはドイツと対立していたのが、現在ではE C Bの政策を巡り奇妙な協調関係が成立している。

今月7日のE C B理事会では、それに先立って関係者がユーロ高圧力を抑えるために「テーパリングの計画は12月まで整わない」と表明させたが、ドラギ総裁は理事会後の会見で次回10月に決定する事を表明した。おそらく、ドラギ総裁は本音では出来る限りテーパリングに踏み出すのを後ズレさせたいと思っているのだろうが、基本的にG 30の指示で動いている以上、米権力者層の意向には従わざるを得ないようだ。

足元では1ユーロ=1.2000ドル台にまでユーロ高が進んだ事で、E C B執行部だけでなくドイツ連銀までがそれを牽制する発言をするようになってきている。このため、当面はユーロ高修正が先行しておかしくないが、中長期的には米国の通貨政策が変わってきている事に留意すべきである。

ただ、米国によるドル安誘導の最大のターゲットは中国・人民元である。中国は日本と並ぶ米国債保有国なので、対外債務を削減するには対ドルで人民元相場を切り上げる必要があるのは言うまでもない事だ。ただそれだけでなく、より戦略的な観点からも切り上げが必要とされている。

米系財閥は「新冷戦」構造を構築していくにあたり、従来の国際通商体制である世界貿易機関(W T O)体制を瓦解させ、冷戦の相手である中国やその衛星国をそこから追放し、米国を中心に新たな国際体制の構築に向けて動こうとしている。

そこでは、これから中国による対米輸出を減少させていく必要があるため、そうした戦略的な観点からも人民元相場を切り上げる事が必要になる筈だ。

永山卓矢の「マスコミが触れない国際金融経済情勢の真実」

詳しくはこちらへ → <http://17894176.blog.fc2.com/>

# ガ・テクニカル

損切りドテン

9月9～10日の土日は北朝鮮ミサイル発射が警戒されていたものの、週明け何事もなく、ドル円相場が急反騰、日経平均も同様にギャップアップ3連発。しかし、15日には北朝鮮のミサイルが発射され北海道上空を通過。

ドル円相場は発射直後の朝7時過ぎには109円ミドルまで急落したものの、日中は底固く推移して110円台に戻した。これを受け、日経平均は前日からの強気基調の流れを引き継ぎ、終日プラスで推移、終値は19,909と前週比634円高となった。

先週は「週明け、ドル円相場の下落が止まらない場合、さすがに4月安値に接近してこよう。株価がドル円の下落に後から追従してくる形になる。その前に円高が収まれば、買い支えも効いてくることになるだろうが、現段階では期待薄」と述べたが、この目論見は外れ、週明けからの円安で株価も急上昇。

前回は全ての強気トリガーが否定されたが、先週は全ての弱気トリガーを打ち消した。ショートはストップレベルの19,692を残念ながらヒットした。相場は6月～7月の保合いを最初に下放れした8月8～9日のギャップ(19,970～

19,660)に挑戦中。今週このレベルをギャップアップして引ければ完全な強気に戻る。再び過去の強気シナリオが復活。即ち「上値目標21400円±250。これは昨年6月の高値を更新し、1996年6月以来、ほぼ21年ぶりの高値となろう」。

サイクルは2015年9月から刻まれた20週前後が有効。これを支えに、今週はまだ2週目と計算してウエッジ上限を狙う動きを狙ってドテン買いに転じる。しかし19,000円割れで引ければストップアウト。



## 今週の必読押し

ドル指数の逆三尊と  
ユーロ/ドルの三尊と

英ポンドが対ドルで急伸している。ファンダメンタル要因はともかく、この相場は1985年2月から2009年2月まで8年、96カ月前後(96カ月、100カ月、91カ月)で節目となる安値をつけており、09年2月からブレイクアウト騒動のあった昨年10月の安値までは93カ月。今月の上昇で15年10月以来35カ月ぶりに24カ月移動平均(現在1.3444)を突破した。今月の引け値でこの平均値を上回ると、今回も8年サイクルのボトムが確認されよう。もしそうなった場合、過去4回は日柄にして最低5年、最長7年、値幅にして最低22.25%、最大で94.25%の上昇が見られたことから、超長期的に運用するのであれば、ポンド/ドルの購入が面白いかもしれない。この相場は、3年で1.1450まで下げた。目先の平均線を超えると、今後数年かけて半値戻しで1.4321±0.0339まで戻す可能性がある。それは、全方位でドル自体が弱くなっていく事を意味する。

ただ、目先のドルは短期的に上昇し、その余波でユーロ/ドルは下落すると筆者は見ている。当欄では以前から「…短期は(8月)29日高値(1.2069)を引け値で上回ったところにストップロスを入れて売りを推奨したい」としているが、相場は9月8日に1.2091まで上昇したが、引け値は1.2034で超え切れず反落。ここ数カ月の強力な下値サポートである23日移動平均(先週末で1.1886)付近での攻防が続いている。従って今週は8日高値以上の引け値にストップロス水準を引き上げて売り方針を継続したい。恐らく、今月中に69日移動平均(先週末で1.1631)を試しにかかるのではないかな。

もう一つチャートパターンの注目したいのはドル指数日足との比較である。ポンドの上伸にもかかわらず、ドル指数は8日の安値を割り込まず、ユーロ/ドルは8日の高値を超え切れていない。これは短期的に前者が逆三尊底、後者が三尊天井になっている可能性がある。ネックラインを放れると、数週間前者は上昇相場、後者は下降相場になるのではないかな。なお、この見通しはそれぞれ8日の価格を突破した時点で否定される。

**投資日報presents 株式限定勉強会**

**【2017年 秋季勉強会】 — 来年に向け、如何に儲けるか —**

年四回開催している弊社勉強会のスピンオフ企画を開催します。マクロとミクロの両面から株式市場の現状と展望を解説します  
(第1部登壇講師の都合上、DVDの撮影・販売はございません)

<b>講師</b>	<b>日時</b>
<b>&lt;第1部&gt;</b> 【ミクロ編】 優待取り扱い株と小型株の発掘	9月23日(土)13:00～16:00
<b>&lt;第2部&gt;</b> 【マクロ編】証券相場の回顧と展望	会場 貸会議室日本橋清新丹 東京都中央区日本橋人形町1-4-10 人形町センタービル2階
<b>参加費</b>	8,000円(税込) ※お申込み手数料等はお客様負担となります。

株式会社投資日報社 代表取締役 鍋木 高明

■ 詳細・お申し込みはこちら  
(株)投資日報社 電話: 03-3669-0278 <http://www.toushinippou.co.jp/>  
東京都中央区日本橋人形町3-12-11GRANDE人形町6階 <セミナー>内【株式限定勉強会】よりお申し込みください

**フォーキャストのその先へ 2017年ファイナル**

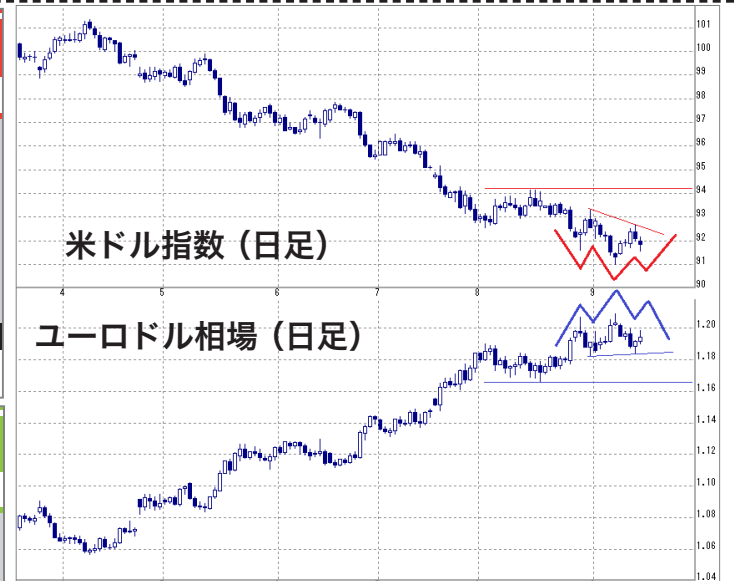
**【2017年 秋季勉強会】 — 来年に向け、如何に儲けるか —**

四半期ごとに年4回開催しているこの勉強会。今年最後の勉強会では、これまでにお伝えできなかった事象も含め、従来よりも2倍「有用」にして「重要」な内容を皆様にお伝えします!

<b>講師</b>	<b>日時</b>
<b>&lt;第1部&gt;</b> マーケットクロスオーバー Vol.2 金融経済アナリスト 神成 厚至	10月28日(土)13:00～17:00
<b>&lt;第2部&gt;</b> 年後半の儲けの機会を探る	会場 貸会議室日本橋清新丹 東京都中央区日本橋人形町1-4-10 人形町センタービル2階
<b>参加費</b>	<懇親会なし> 14,040円(税込) <懇親会あり> 18,040円(税込) ※お申込み手数料等はお客様負担となります。

株式会社投資日報社 代表取締役 鍋木 高明

■ 詳細・お申し込みはこちら  
(株)投資日報社 電話: 03-3669-0278 <http://www.toushinippou.co.jp/>  
東京都中央区日本橋人形町3-12-11GRANDE人形町6階 <セミナー>内【2017年秋季勉強会】よりお申し込みください



今週の相場風林語録

**彼岸天井、彼岸底**

春や秋の彼岸ごろには天井をつけたり底を打ったりしやすいという、これもジンクスみたいなもの。堂島米相場の時代に言われていた。



今週の**九星★波動**

南雲 紫蘭

## もう反転？

ハリケーン「イルマ」と北朝鮮というリスクを過大評価していたのか、ある意味、円高もサポートを割れたと思われた瞬間大きく反発しました。

また、株式相場も債券市場もリスクオンになっています。

リスクオンとなった最大の要因は何といっても、北朝鮮に対する制裁に関する当初期待したほどのレベルには到達しない—少なくとも石油全面禁輸には乗り出さない—ことが判明したからです。北朝鮮も攻撃開始とされる時期に静かにしていること、石油全面禁輸は到底成り立ちそうもない—ということは、少なくとも第二次世界大戦直前の日本ほど孤立していない、とも言えます。逆に石油全面禁輸は戦前の大日本帝国のように「負けるのがわかっていても戦争に出る」というリスクがあったので、むしろ強烈な制裁が起こらないということは、少なくとも全面戦争—世界核戦争—とはならない、という期待が込められてい

## 相場指南道場

## トレーダーあすなろ物語 (412)

中原 駿

具体的に言えば、上野が大きな信用を供与できる銀行は、フランスでは2行程度、米国では5行程度、邦銀では6行程度であった。

後はオーストラリアに2行、英国に3行といったところか。

結局、信用供与という点では、いつかはだれかにわかってしまう運命にあった。

上野が最初あつた先はそれでも非常に慎重であった。

当時、デリバティブ取引でも資金取引でも最大級のポジションを持っていた米系であった。

ここはあまりにもポジションを持っていたので、シンガポール支店へのリスク供与など全く気にもならなかっただろう。

## 第六感の



## 複雑怪奇な動き

テクニカルアナリスト 葛城 北斗

## 今年1～4月の動き再現か

先週のドル円相場は急反発し、8日の107円台から14日一気に111円まで戻した後、15日北朝鮮のミサイル発射実験で、109円台に下落するなど、全く読めない展開となっている。テクニカル的なダマシや北朝鮮の気まぐれな挑発に翻弄されている感じ。

正直、今のこのドル円相場は読めない。4月最安値を更新して年初来安値を付けた後、急反発し直前の戻り高値をも更新。8月11日以降は断続的に安値を更新したものの、反発過程においては高値も更新。

正常なテクニカルやパターン分析が完全にマヒしており、サイクルも読めない展開が続いている。

今年1月から3月にかけても同様の動きで翻弄させられた記憶がよみがえる。2月6日にそれまでのサポートであった112.50を下抜け年初来安値を付けた後、急反発し前の戻り高値に接近。しかし再び下落して2月28日ダブルボトム。その後3月10日にこれまでの戻り高値を更新して上昇トレンドに回帰したと見せかけてから急反転、4月17日の安値まで高値から7円以上下落して108円台を付けてまた反転。

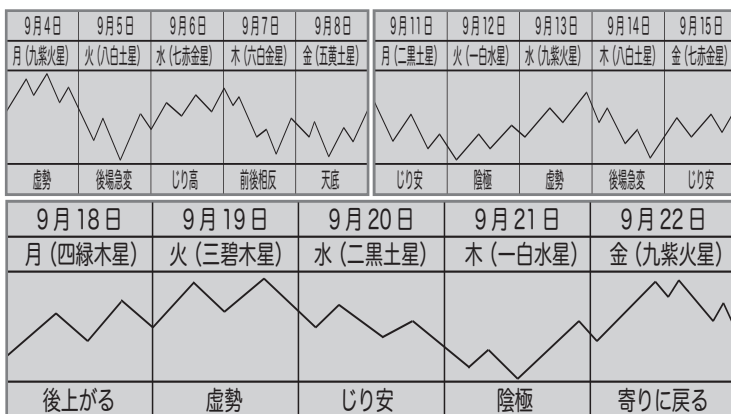
チャートは当時と今回を並べてたが、似たような上下動の繰り返し。1月の2つの戻り高値を結んだライン、同様に8月の2つの戻り高値を結んだラインを基本に考えると、今回の戻り高値が2月15日の戻り高値に相当する。

るのでしょう。

さて、九星高下伝は7日から月盤《一白水星》に入っています。

本来「陰極」を意味する《一白水星》。過去の《一白水星》は結構立ち直りが早いケースがあります。

もはや、相場は反転したのかもしれない。



それでも、この米系が非常に慎重であれば、上野のポジションが買っての年限と全く違っていた可能性もあった。

だが、銀行は自己ポジションの時もあるが、ヘッジでポジションを持つこともあった。

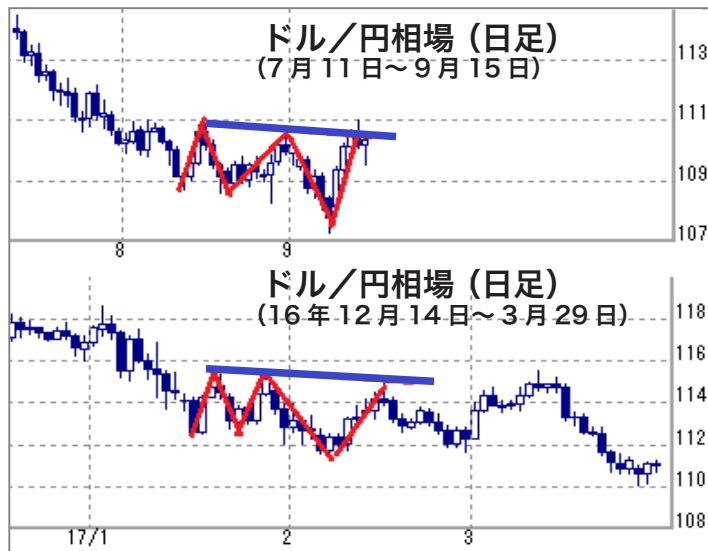
上野はこの点に関しては、偽装を考えていた。

つまり、アジアの投資家に対するセールスが成功し、その投資家のヘッジポジションのために中期ゾーンのポジションを作っている、というのがその偽装であった。

実際には、上野が現地の投資家と取引している事実は無かった。それでも、その時期から大きく存在を表しつつあったアジアの国家系投資会社は大きな存在感を出し始めていた。

その巨大なポジションを考えれば、そうした取引を上野が取れたとしても怪しい、とすぐに気が付く可能性は低い、と上野は考えていたのである。

とはいえ、今後下げて、前の安値に接近するかどうか自信はない。そして再び反発して3月の戻り高値を付けるような動きが出た後、急落して安値更新。こうなるとまたまた翻弄されよう。今の処、サイクルの位置づけは4月に1年サイクルボトム、7月がその天井、現在は来年4月前後2カ月に付ける予定の1年サイクルボトムに向けた下げ過程に入っているとした見方だが、その下値目標値は101.73±0.75。しかしこのサイクル位相も9月8日に若干延長して1年サイクルボトムを付けたとする見方も浮上。先週のストラテジーは110円を超えて引けた事でショートはストップアウト。現段階では方向性が見えず、しばらく相場から離れて様子見としたい。



# サイクルだけ話します。

— メリマン・サイクル理論 備忘録 —

## 【第 57 回】 N Y 原油のサイクルについて (7)

今回の分析は、1998年12月21日の10.35ドルを起点としたNY原油の長期18年サイクルが、2016年2月11日の26.05ドルでボトムをつけた、という前提のもとで記述して行きます。

前回の18年サイクルは2つの9年サイクルに3つの3年サイクルで分割されました。従って今回も同パターンでサイクルが形成されるなら、今月は第1－3年サイクルの19カ月目。更にこの相場は起点から16カ月目にあたる6月21日42.05ドルで反発しているので、この3年サイクルは2つのハーフサイクル（ $18 \pm 3$ カ月）で1月3日の55.24ドルを試しにかかっていると前回予測しました。今週はこれを週足で見してみましょう。

3年はおよそ156週。その半分の18か月は78週。オーブを入れると、それぞれ $156 \pm 26$ 週、 $78 \pm 13$ 週になります。16年2月安値から今年の6月安値までは71週です。

サイクルは通常2分割ないし3分割されるので、78週は39週前後で2分割されるか、26週前後で3分割される筈です。その前提で14年1月からのサイクルをカウントすると、ここから16年2月までのサイクルは3年サイクルの最終局面で歪み

メリマン通信 — 金融アストロロジーへの誘い —

## 水星逆行シャドウ抜けとFOMCと

前週の記述も含め、先週次の通り述べた“日経平均株価は（8月）29日に安値を更新したかと思えば、急反騰して（9月）1日に高値を形成。しかし先週末（8日）は29日安値を割り込んでいる。このパターン時は逆行シャドウ抜け場面が次の節目になりやすい。…水星逆行のシャドウ抜けは9月19～20日。実はこの時間帯よりも前の米国時間9月12～17日、日本時間13～18日に金星・土星・天王星のグランドトライン（120度）が出現する。これは12～13日に発生する金星・土星トラインと17～18日に発生する金星・天王星トラインの組み合わせ。トラインは惑星間の関係が良好な状態になる事で知られる天体位相。金星は金融商品全般に関係する惑星だが、とりわけ株式との関係性が深い。“良好”は相場上昇と関連性が高いのだが、裏返せば、そこが“ピーク”となりやすい。従って、今週（9月）5日の逆行終了日で反転下落（銘柄によっては反転上昇）しなかった相場は、シャドウ抜け付近で反転する可能性がある。日

高く仕入れて安値で投げる投資家から  
脱却してアクティブブシニアになろう！

四半世紀以上、投資の最前線で活躍してきた  
「プロ中のプロ」が語る現在の株式市場とは

- ◎マイナス金利時代に株を持ち続けて成功する秘訣を解き明かす
- ◎10倍になる株など豊富な実例で銘柄発掘の心得を公開！
- ◎株式投資の実践編として〈有望銘柄掲載〉！



# 株で資産を蓄える

～バフェットに学ぶ失敗しない長期株式投資の法則～

S・アダチ&カンパニー  
代表取締役社長

足立 眞一 著

発行：開拓社 定価：1,296 円（税込み）

が生じていた事が判りますが、それ以降になると 26 週以内の日柄で3分割されていました。

現行相場は今週6月安値から13週目に入り、12週目にあたる先週、急反騰しています。チャートパターンでは頭が抑えられている印象がありますが、日柄面ではまだまだ上昇余地があると見る事が出来ます。ただ、これらの週足の日柄見通しは、MMAサイクルズレポートでの見方と若干異なります。そこで次週はその違いを解説して今月の結びと代えさせて戴きます。



本は18日が祝日なので、再来週19日の相場には注意して臨みたい。…従って株式市場は今週いっぱい、先週末の低迷基調とは裏腹に上昇する可能性がある。しかしこの見立てが崩れ、下げ場面が続くようなら、恐らく今月27日（日本時間28日）に発生する木星・天王星オポジション（180度）付近で次の節目が到来するのではないかと筆者は見ている”。株式市場は先週、日米とも軒並み上昇。恐らくこれは、先週指摘した金星グランドトラインの影響であると星回りから解説出来る。

水星逆行シャドウ抜けの時間帯と、FOMCの開催時間帯が重なっているのがジオコスミック的に興味深い。株式のみならず、ここは反転ポイントとして注視しておくべきである。

残念ながら、星回りで相場の方向性を探る事は難しい。しかし、今回のグランドトラインが影響しているのなら、それは株式市場の高値を示唆する。急落に注意しておきたい。今週は水星が20日に海王星とオポジション（180度）、22日に冥王星とトラインを形成するので、ここが短期的な反転ポイントになりやすいと筆者は考える。また、海王星は24日に火星とオポジションの関係になる。20日と24日は原油相場の動きに注目したい。

~~~~~  
**WEBサイトより一足早く、1週間分まとめ読み！！**  
 ~~~~~

## 今週のastroロジー info

- |          |                     |
|----------|---------------------|
| 9月18日(月) | 海外市場で大きな動き          |
| 9月19日(火) | 今週は商品市場の転換に注意       |
| 9月20日(水) | FOMCも本日から金融市場転換ゾーン  |
| 9月21日(木) | 前後営業日での小転換に備える      |
| 9月22日(金) | 転換終了                |
| 9月23日(土) | ナンピンは使い方次第で有効な手段になる |
| 9月24日(日) | 乗せは度胸と割り切りが大事       |

2017年  
写真勉強会

フォーキャストのその先へ

**DVD** 遠方でお越しいただけなかったお客様のために、毎年恒例7月勉強会を録画し、DVDで販売いたします。税務のプロによる、投資家が避けては通れない「相続」に関する話を第1部で、四半期ごとに分析しているドル、ユーロ、円の動き、日本株式市場や金価格の現状と今後の展開については2部でお話ししています。

講師	<第1部> あらためて知っておきたい 「相続」の話		収録時間	第1部 76分 第2部 117分
	税理士 西村 侯政氏		価格	10,800円(税込) * WEI認定価格(新規加入者・会員登録、が必要です) 【特典1】勉強会当日に配布した資料 【特典2】10月勉強会特別価格ご参加権 14,040円→10,800円
	<第2部> 2017年 第3・4半期の各種相場分析		購入特典	
	株式会社投資日報社 代表取締役 篠木 高明			

■ 詳細・お申し込みはこちらから  
 (株) 投資日報社 電話：03-3669-0278 <http://www.toushinippou.co.jp/>  
 東京都中央区日本橋人形町3-12-11GRANDE人形町6階  
 <Category>内の [DVD・CD] からお申し込みください